

奈良フレンズ20年の歩み

1984年（S59年）

- 4月 日本身体障害者水泳連盟（JSFD）が設立され、近藤 脩が理事に就任
- 9月 第1回日本身体障害者水泳選手権大会（大阪市身体障害者スポーツセンター）に6名出場
- 10月 第20回全国身体障害者スポーツ大会「わかくさ大会」（奈良市）に近藤 脩、葛原国夫、川井哲也、濱田しま子、福井修次、和田信重が出演『金3・銀5・銅2』
- 11月 奈良県身体障害者水泳クラブ（現 奈良障害者水泳クラブ）が近藤 脩、葛原国夫、福井修次らが発起人となり創立され、初代代表に近藤 脩を選出

1985年（S60年）

- 5月 第22回奈良県身体障害者スポーツ大会（奈良県営温水プール）に10名出場
- 9月 第2回日本身体障害者水泳選手権大会（大阪市身体障害者スポーツセンター）に10名出場『金10・銀3・銅3』
- 9月 総会開催
- 10月 第21回全国身体障害者スポーツ大会「わかとり大会」（鳥取県）に木内泰行、金堂恵子、吉本 努、吉西克人が出演『金1・銀2・銅3』

1986年（S61年）

- 5月 第23回奈良県身体障害者スポーツ大会（奈良県営温水プール）に13名出場
- 6月 機関紙「奈良身障SC通信」を創刊
- 7月 第5回東海身体障害者水泳選手権大会（名古屋市身体障害者スポーツセンター）に7名出場
- 9月 第3回日本身体障害者水泳選手権大会（名古屋市身体障害者スポーツセンター）に13名出場『金16・銀3・銅3』
- 9月 総会開催
- 10月 第22回全国身体障害者スポーツ大会「かいじ大会」（山梨県）に茂木秀昭、三浦芳茂、賀集功二が出演『金6』
- 11月 第3回奈良マスターズ（奈良スイミングスクール）に7名出場
- 12月 懇親会開催「ふれあい寮」（田原本町）

1987年（S62年）

- 4月 第4回奈良マスターズ（奈良県営温水プール）に7名出場
- 5月 第24回奈良県身体障害者スポーツ大会（奈良県営温水プール）に14名出場
- 7月 近畿身体障害者水泳大会（彦根総合運動場スイミングセンター）に3名出場
- 7月 第6回東海身体障害者水泳選手権大会（名古屋市身体障害者スポーツセンター）に7名出場
- 9月 第4回日本身体障害者水泳選手権大会（大阪市身体障害者スポーツセンター）に17名出場『金17・銀6・銅3』
- 9月 総会開催
- 9月 '87日本マスターズ長水路大会（神戸市立ポートアイランドスポーツセンター）に1名出場
- 11月 第5回奈良マスターズ水泳競技（王寺イトマンスイミングスクール）に6名出場
- 11月 第23回全国身体障害者スポーツ大会「かりゆし大会」（沖縄県）に須賀野淑人、福本ひとみ、山口 誠、高浜 優が出演『金5・銅1』
- 12月 懇親会開催「ふれあい寮」（田原本町）18名参加

1988年（S63年）

- 2月 春期長距離水泳記録会（名古屋市身体障害者スポーツセンター）に2名出場
- 4月 奈良市総合福祉センター（奈良市左京）内に「ならやま屋内温水プール」が完成
- 5月 第6回奈良マスターズ（ユニチカ・オークタウン：大和高田市）に5名出場
- 5月 第25回奈良県身体障害者スポーツ大会（奈良県営温水プール）に出場
- 5月 日本マスターズ水泳短水路大会（京都両洋高校プール）に1名出場
- 5月 ならやま屋内温水プールで定期練習を開始
- 6月 近畿身体障害者水泳選手権大会（ファインプラザ大阪）に13名出場
- 7月 第7回東海身体障害者水泳選手権大会（名古屋市身体障害者スポーツセンター）に4名出場『金8』
- 7月 夏合宿開催「奈良県心身障害者福祉センタープール」・「ふれあい寮」（田原本町）13名参加
濱田志朗先生および山本正子先生がコーチとして参加
- 9月 第5回日本身体障害者水泳選手権大会（東京都障害者総合スポーツセンター）に14名出場『金17・銀6・銅2』
- 9月 総会開催
- 10月 第8回ソウルパラリンピックに茂木秀昭、金堂恵子が出場
同大会に濱田志朗先生がコーチとして参加
- 10月 第24回全国身体障害者スポーツ大会「愛とふれあいの京都大会」に古田直実、井戸秀治、松野純男が出場『金1・銀3・銅2』
- 11月 第7回奈良マスターズ（スイミングあす香）に6名出場
- 12月 冬合宿開催「ならやま屋内温水プール」（奈良市左京）・「ふれあい寮」（田原本町）

1989年（H1年）

- 4月 近畿身体障害者水泳選手権大会（ファインプラザ大阪）に14名出場
- 4月 第8回奈良マスターズ（奈良YMCA）に10名出場
- 5月 奈良ハンディスイミングボランティア協会（奈良HSV協会）が濱田志朗先生（奈良県立医科大学体育学講師）の提唱により結成、濱田志朗先生が会長就任
- 5月 第26回奈良県身体障害者スポーツ大会（奈良県営温水プール）に出場
- 7月 第6回日本身体障害者水泳選手権大会（ポートアイランドスポーツセンター）に19名出場『金16・銀5・銅3』
- 7月 総会開催
- 9月 第5回フェスピック神戸大会に茂木秀昭、川井哲也、賀集功二（バトミントン）が出場『金1・銀1・銅2』
- 10月 第9回奈良マスターズ（アイランド香芝スイミングスクール）に7名出場

1990年（H2年）

- 1月 懇親会開催「ふれあい寮」(田原本町)
- 3月 第10回奈良マスターズ(奈良YMCA)に6名出場
最優秀マスターズ賞を大川 昌が受賞する
- 3月 近畿身体障害者水泳連盟の理事に賀集功二、三浦芳茂が就任
- 5月 第27回奈良県身体障害者スポーツ大会(奈良県営温水プール)に28名出場
- 5月 総会を開催し代表に近藤 脩、副代表に賀集功二を選出
運営委員に川井哲也、木内泰行、葛原国夫、松野純男、三浦芳茂、村山松生、茂木秀昭を選出
総会で運営委員を選び、運営委員が代表、副代表を選ぶことにする
当クラブ名称を「奈良県身体障害者水泳クラブ」から「奈良身体障害者水泳クラブ」に変更
- 7月 夏合宿開催「奈良県心身障害者福祉センタープール」・「ふれあい寮」コーチ 嶋内高之先生
- 7月 第1回近畿身体障害者水泳選手権大会(ファインプラザ大阪)に22名出場
- 9月 第7回日本身体障害者水泳選手権大会(広島市)に16名出場『金13・銀4・銅1』
- 11月 第26回全国身体障害者スポーツ大会「ときめきのとびうめ大会」(福岡県)に中迫清治、高木千智が出演『金3・銅1』
- 12月 懇親会開催「ふれあい寮」(田原本町)16名参加

1991年（H3年）

- 3月 第12回奈良マスターズ(ウイスコ王寺：王寺町)に7名出場
- 4月 当クラブのジャージ上下を作製
- 5月 第28回奈良県身体障害者スポーツ大会(奈良県営温水プール)に28名出場
- 5月 総会を開催し代表に近藤 脩、副代表に賀集功二を選出
運営委員に川井哲也、木内泰行、葛原国夫、松野純男、三浦芳茂、村山松生、茂木秀昭を選出
濱田志朗先生(奈良県立医大講師・奈良HSV協会会長)が当クラブの顧問に就任
- 6月 日本身体障害者水泳連盟強化合宿(大阪府臨海プール、ファインプラザ大阪)に4名参加
- 6月 第3回京都市障害者スポーツセンターオープン記念水泳記録会に3名出場
- 7月 第2回近畿身体障害者水泳選手権大会(滋賀県立障害者福祉センター)に22名出場
- 9月 第8回日本身体障害者水泳選手権大会(福岡市立障害者スポーツセンター)に18名出場
『金12・銀5・銅4』
- 10月 第27回全国身体障害者スポーツ大会「ほほえみの石川大会」に龍見博一、中富久美子、原洋幸、湊 恵子、菅原 琢が出演『金4・銀2・銅3』
- 10月 第13回奈良マスターズ(ニッシンSS：大和郡山市)に3名出場
- 11月 奈良県身体障害者スポーツ協会の10周年式典で国際大会出場者である茂木秀昭、金堂恵子、川井哲也、賀集功二が表彰される
- 11月 '91ジャパンパラリンピック(東京体育館屋内プール)に川井哲也、中迫青治、茂木秀昭が出演『金2』
- 12月 懇親会開催「ふれあい寮」(田原本町)22名参加

1992年（H4年）

- 3月 第14回奈良マスターズ（奈良スイミングスクール）に4名出場
- 5月 第29回奈良県身体障害者スポーツ大会（奈良県営温水プール）に25名出場
- 5月 総会を開催し代表に賀集功二（新任）、副代表に近藤 脩（新任）を選出
運営委員に川井哲也、木内泰行、葛原国夫、松野純男、三浦芳茂、村山松生、茂木秀昭、松林 隆（新任）を選出
- 5月 日本身体障害者水泳連盟強化合宿（日本サイクルスポーツセンター：修善寺）に1名参加
- 6月 日本身体障害者水泳連盟強化合宿（大阪府臨海プール、ファインプラザ大阪）に6名参加
- 6月 当クラブ顧問であり奈良HSV協会会長の濱田志朗先生逝去
奈良HSV協会の後任会長に当クラブ副代表の近藤 脩が就任（現任）
- 7月 第3回近畿身体障害者水泳選手権大会（京都市障害者スポーツセンター）に15名出場
- 8月 第43回奈良県民体育大会水泳競技（奈良県営プール）に3名出場
- 9月 第9回日本身体障害者水泳選手権大会（滋賀県立障害者福祉センター）に16名出場
『金14・銀2・銅4』
- 10月 '92レインボーカップマスターズスイミング（名古屋市レインボープール）に3名出場
- 10月 '92ジャパンパラリンピック陸上（江戸川区陸上競技場）に三浦芳茂が出場『金1・銀2』
- 10月 第28回全国身体障害者スポーツ大会「輝きのべにばな大会」（山形県）に松林 隆、和田篤範、黒木浩喜（陸上）、辻田弘樹（陸上）が出場『金3・銀2・銅2』
同大会に近藤 脩がコーチとして参加
- 10月 第15回奈良マスターズ（JSSダイワSS：大和高田市）に8名出場
- 11月 '92ジャパンパラリンピック（東京辰巳国際水泳場）に茂木秀昭が出場『金1・銀1』
- 11月 日本身体障害者水泳連盟指導者研修会（神戸市しあわせの村）に3名参加
- 12月 懇親会開催「ふれあい寮」（田原本町）15名参加

1993年（H5年）

- 3月 第16回奈良マスターズ（アイランド香芝スポーツクラブ）に3名出場
- 5月 第30回奈良県身体障害者スポーツ大会（奈良県営温水プール）に28名出場
- 5月 総会を開催し代表に賀集功二、副代表に近藤 脩を選出
運営委員に川井哲也、木内泰行、葛原国夫、松野純男、松林 隆、三浦芳茂、村山松生を選出
茂木秀昭の退任を承認
- 5月 日本身体障害者水泳連盟強化合宿（大阪府臨海プール、ファインプラザ大阪）に2名参加
- 6月 第1回浜田志朗記念講演会「ライフスタイルを考える」・ウェルネスプログラムより・講師：同志社女子大 野崎康明教授
- 7月 第4回近畿身体障害者水泳選手権大会（ファインプラザ大阪）に14名出場
- 8月 夏合宿開催「ならやま屋内温水プール」・「カトリック野外礼拝センター」23名参加
日本身体障害者水泳連盟の和田行博理事長がゲストとして参加
- 9月 第10回日本身体障害者水泳選手権大会（東京都町田市立室内プール）に14名出場
『金14・銀7・銅3』
- 9月 '93レインボーカップマスターズスイミング（名古屋市レインボープール）に2名出場
- 10月 第17回奈良マスターズ（やすらぎタウン中央広場：山城町）に6名出場
- 11月 第29回全国身体障害者スポーツ大会「躍動のうずしお大会」（徳島県）に久保良男、大川 昌、深浦善教、中西真一、西村真由美が出場『金3・銀3・銅4』
- 11月 '93ジャパンパラリンピック（東京辰巳国際水泳場）に和田篤範、茂木秀昭が出場
『金1・銀2』
- 12月 懇親会開催「ふれあい寮」（田原本町）14名参加

1994年（H6年）

- 5月 第31回奈良県身体障害者スポーツ大会（奈良県営温水プール）に28名出場
- 5月 総会を開催し代表に賀集功二、副代表に近藤 脩を選出
運営委員に川井哲也、木内泰行、松野純男、松林 隆、三浦芳茂、村山松生、中富久美子、竹村 正（新任）を選出 葛原国夫の退任を承認
- 5月 日本身体障害者水泳連盟強化合宿（大阪府臨海プール、ファインプラザ大阪）に2名参加
- 7月 第2回濱田志朗記念講演会「生命の輝き・仏像の型に学ぶ：浄瑠璃寺住職 佐伯快勝師」
- 7月 第5回近畿身体障害者水泳選手権大会（神戸市市民福祉交流センター）に25名出場
- 7月 夏合宿開催「ならやま屋内温水プール」・「カトリック野外礼拝センター」22名参加
長嶺知永子先生、近藤満子先生がコーチとして参加
- 8月 運営委員会にて略称「奈良身障SC」から愛称「奈良フレンズ」「Nara Friends」へ変更することを承認（愛称は三浦芳茂の子息案）
- 9月 第6回フェスピック北京大会に近藤 脩がコーチとして参加
- 9月 '94レインボーカップマスターズスイミング（名古屋市レインボープール）に1名出場
- 10月 第11回日本身体障害者水泳選手権大会（大阪市身体障害者スポーツセンター）に賀集功二、塩崎雄也、福井修次、三浦芳茂、和田篤範、島田陽子、中川公子、中富久美子、西島澄子、湊 恵子の10名が出場『金9・銀3・銅1』（この回から参加標準記録制度を施行）
- 10月 第3回全国知的障害者スポーツ大会「ゆうあいピック群馬大会」に青葉千加子が出場『銀1』
- 10月 第19回奈良マスターズ（スポーツセンター田原本）に3名出場
- 10月 日本身体障害者水泳連盟指導者研修会（神戸市しあわせの村）に2名参加
- 11月 第30回全国身体障害者スポーツ大会「ゆめびっくあいちわかしゃち大会」に芳中佳代子が出場『金2』
- 11月 '94ジャパンパラリンピック（東京辰巳国際水泳場）に和田篤範、茂木秀昭、西村真由美が出場『金3・銀2』
- 11月 第1回IPCマルタ大会に村山松生が出場
- 12月 当クラブ創立10周年および機関誌50号記念のスイミングキャップを作製
- 12月 機関紙「奈良フレンズ」と名称変更して第50号を発刊
- 12月 懇親会開催「春日野荘」17名参加

1995年（H7年）

- 5月 第32回奈良県身体障害者スポーツ大会（奈良県営温水プール）に22名出場
- 5月 総会を開催し代表に賀集功二、副代表に近藤 脩を選出
運営委員に川井哲也、木内泰行、竹村 正、中富久美子、松野純男、三浦芳茂、村山松生、中川公子（新任）を選出
- 7月 第6回近畿身体障害者水泳選手権大会（ならやま屋内温水プール）に32名出場
- 7月 夏合宿開催「ならやま屋内温水プール」・「カトリック野外礼拝センター」21名参加
長嶺知永子先生、近藤満子先生がコーチとして参加
- 8月 奈良HSV協会が（財）社会教育財団（後援：奈良県・奈良県教育委員会）より「まほろば賞」を受賞
- 9月 第12回日本身体障害者水泳選手権大会（広島市心身障害者センター）に三浦芳茂、竹村 正、賀集功二、松野純男、八木秀樹、石木寿美江、中川公子、中富久美子、湊 恵子、芳中佳代子、西村真由美の11名が出場『金9・銀9・銅2』
- 10月 第31回全国身体障害者スポーツ大会「うつくしま ふくしま大会」に石木寿美江、中川公子、八木秀樹、前川博美、三浦喜代美が出場『金7・銀3』
- 11月 日本身体障害者水泳連盟指導者研修会（神戸市しあわせの村）に松野が参加
- 11月 '95ジャパンパラリンピック（東京辰巳国際水泳場）に八木秀樹、湊 恵子、芳中佳代子、西村真由美が出場『銀2・銅3』
- 12月 懇親会開催「ふれあい寮」（田原本町）14名参加

1996年（H8年）

- 4月 日本身体障害者水泳連盟強化合宿（ファインプラザ大阪）に中川が参加
- 5月 第33回奈良県身体障害者スポーツ大会（奈良県営温水プール）に27名出場
- 5月 総会を開催し代表に賀集功二、副代表に近藤 脩を選出
- 7月 夏合宿開催「奈良県心身障害者福祉センタープール」・「ふれあい寮」23名参加
- 7月 第7回近畿身体障害者水泳選手権大会（ファインプラザ大阪）に28名出場
- 9月 第13回日本身体障害者水泳選手権大会（東京都多摩障害者スポーツセンター）に三浦喜代美、中川公子、中富久美子、芳中佳代子、湊 恵子、西村真由美、和田篤範、塩崎雄也、三浦芳茂の9名が出演『金6・銀6・銅1』
女子100mリレー（三浦喜代美、芳中、湊、中富）1分45秒89で3位入賞
- 10月 第32回全国身体障害者スポーツ大会「おりづる大会ひろしま」に南出公士が出演『金1・銀1』
- 11月 日本身体障害者水泳連盟指導者研修会（神戸市しあわせの村）に松野、中富、中川、近藤が参加
- 11月 '96ジャパンパラリンピック（東京辰巳国際水泳場）に湊 恵子、芳中佳代子、和田篤範が出演『金2・銀1』
- 12月 懇親会開催「ふれあい寮」（田原本町）21名参加

1997年（H9年）

- 4月 日本身体障害者水泳連盟強化合宿（ファインプラザ大阪）に中川、芳中、櫻木が参加
- 5月 第34回奈良県身体障害者スポーツ大会（奈良県営温水プール）に25名出場
- 5月 総会を開催し代表に賀集功二、副代表に近藤 脩を選出
- 6月 当クラブのユニホームとしてジャージを作製
- 6月 第3回濱田志朗記念講演会「運動発達障害と水泳」講師：河村光俊助教授（広島大学医学部保健学科）
- 7月 第8回近畿身体障害者水泳選手権大会（京都市障害者スポーツセンター）に17名出場
- 9月 第14回日本身体障害者水泳選手権大会（群馬県立ふれあいスポーツプラザ）に賀集功二、櫻木元子、三浦芳茂、湊 恵子、中富久美子、芳中佳代子、久永正夫、中川公子が出演『金6・銀7・銅2』
- 11月 '97ジャパンパラリンピック（東京辰巳国際水泳場）に尾崎真弓が出演
- 12月 懇親会開催「共済会館やまと」18名参加 東野有希英先生がゲストとして参加

1998年（H10年）

- 5月 第35回奈良県身体障害者スポーツ大会（奈良県営温水プール）に19名出場
- 5月 総会を開催し代表に賀集功二、副代表に近藤 脩を選出
- 6月 夏合宿開催「大阪市舞洲障害者スポーツセンター」・「アミティ舞洲」17名参加
長嶺知永子先生、東野有希英先生がコーチとして参加
日本身体障害者水泳連盟の西原成幸会長がゲストとして参加
- 7月 第9回近畿身体障害者水泳選手権大会（西宮市総合福祉センター）に17名出場
- 8月 '98ジャパンパラリンピック（なみはやドーム）に尾崎真弓、湊 恵子、山口淳一が
出場『銀1・銅1』
- 9月 第15回日本身体障害者水泳選手権大会（大阪市舞洲障害者スポーツセンター）に三浦芳茂、
尾崎真弓、佐野卓司、久永正夫、湊 恵子、木内泰行、近藤 脩、賀集功二、横尾茂子の9
名が
出場『金6・銀1・銅1』
- 11月 近藤 脩が日本身体障害者水泳連盟の理事を退任
- 12月 冬合宿開催「大阪市舞洲障害者スポーツセンター」・「アミティ舞洲」23名参加
東野有希英先生がコーチとして参加

1999年（H11年）

- 5月 総会を開催し代表に賀集功二、副代表に近藤 脩を選出
運営委員に川井哲也、木内泰行、竹村 正、中川公子、中富久美子、松野純男、三浦芳茂、
村山松生を選出
- 5月 第36回奈良県身体障害者スポーツ大会（奈良県営温水プール）に出場
- 6月 夏合宿開催「大阪市舞洲障害者スポーツセンター」・「アミティ舞洲」27名参加
長嶺知永子先生、小川雅代先生がコーチとして参加
- 7月 第10回近畿身体障害者水泳選手権大会（大阪市舞洲障害者スポーツセンター）に14名出場
- 8月 '99ジャパンパラリンピック（なみはやドーム）に乾井紀英、湊 恵子、山口淳一が
出場『金3・銀2』
- 9月 第16回日本身体障害者水泳選手権大会（宮城県総合運動公園プール）に乾井紀英が
出場『金1・銀1』
- 11月 第35回全国身体障害者スポーツ大会「ハートフルくまもと大会」に局 裕三郎、横尾茂子、
尾崎安彦が
出場『金4・銀1』
- 12月 冬合宿開催「大阪市舞洲障害者スポーツセンター」・「アミティ舞洲」15名参加
小川雅代先生がコーチとして参加

2000年（H12年）

- 5月 総会を開催し代表に竹村 正（新任）副代表に松野純男（新任）を選出
運営委員に賀集功二、川井哲也、木内泰行、近藤 脩、中川公子、中富久美子、三浦芳茂、
久永正夫（新任）を選出 村山松生の退任を承認
- 5月 第37回奈良県身体障害者スポーツ大会（奈良県営温水プール）に22名出場
- 6月 夏合宿開催「大阪市舞洲障害者スポーツセンター」・「アミティ舞洲」18名参加（兵庫SC、
大阪シーホースとの合同） 長嶺知永子先生、小川雅代先生がコーチとして参加
- 7月 第11回近畿身体障害者水泳選手権大会（滋賀県立障害者福祉センター）に15名出場
- 8月 2000ジャパンパラリンピック（なみはやドーム）に乾井紀英、湊 恵子、山口淳一が出
場『金3』
- 9月 第17回日本身体障害者水泳選手権大会（福岡県立総合プール）に乾井紀英、松野純男が出場
『金1・銀2・銅1』
- 10月 第36回全国身体障害者スポーツ大会「きらりんぴっく富山」に藤原 勝、志野光章、佐野卓
司が出場『金1・銀1・銅2』
同大会に近藤 脩がコーチとして参加
- 12月 冬合宿開催「大阪市舞洲障害者スポーツセンター」・「アミティ舞洲」15名参加
小川雅代先生がコーチとして参加

2001年（H13年）

- 2月 近畿身体障害者水泳連盟理事に当クラブ代表の竹村 正が就任（三浦芳茂が理事退任）
- 5月 第1回奈良県障害者スポーツ大会（奈良県営温水プール）に31名出場
- 5月 総会を開催し代表に竹村 正、副代表に松野純男を選出
- 6月 夏合宿開催「大阪市舞洲障害者スポーツセンター」・「アミティ舞洲」24名参加
中野 薫先生、小川雅代先生がコーチとして参加
- 6月 第12回近畿身体障害者水泳選手権大会（神戸市市民福祉交流センター）に14名出場
- 8月 2001ジャパンパラリンピック（なみはやドーム）に乾井紀英、佐野卓司、湊 恵子、山
口淳一が出場『金4・銅1』
- 9月 第18回日本身体障害者水泳選手権大会（広島市心身障害者センター）に乾井紀英、高森敏夫
が出場『銀1』
- 10月 第1回全国障害者スポーツ大会「翔く・新世紀みやぎ大会」に竹村 正、木村忠一、清水煌
三、村山松生（会員OB）が出場『金3・銀1』
同大会に島岡 眞先生がコーチとして参加
- 12月 冬合宿開催「大阪市舞洲障害者スポーツセンター」・「アミティ舞洲」18名参加
中野 薫先生、小川雅代先生がコーチとして参加

2002年（H14年）

- 4月 総会を開催し代表に竹村 正、副代表に松野純男を選出
運営委員に賀集功二、木内泰行、近藤 脩、中川公子、中富久美子、久永正夫、三浦芳茂、芳中佳代子（新任）を選出 川井哲也の退任を承認
- 4月 スポーツ安全保険の加入を開始
- 5月 第2回奈良県障害者スポーツ大会（奈良県営温水プール）に27名出場
- 6月 夏合宿開催「大阪市舞洲障害者スポーツセンター」・「ロッジ舞洲」20名参加
中野 薫先生、小川雅代先生がコーチとして参加
- 7月 第13回近畿身体障害者水泳選手権大会（奈良市西部生涯スポーツセンター）に24名出場
- 8月 2002ジャパンパラリンピック（なみはやドーム）に佐野卓司、仲西洋平、湊 恵子、乾井紀英、塩崎雄也、山口淳一が
出場
『金2・銀2・銅2』
- 9月 第19回日本身体障害者水泳選手権大会（京都アクアリーナ）に乾井紀英、松野純男、三浦芳茂、竹村 正、佐野卓司、塩崎雄也、仲西洋平、斎藤佳久、高森敏夫、中川公子、芳中佳代子、湊 恵子、西井圭子の13名が
出場『金5・銀5・銅3』
男子200mリレー（仲西、佐野、塩崎、乾井）2分12秒31で5位入賞
- 10月 乾井紀英、山口淳一の海外遠征のためのカンパを募る
- 10月 第8回フェスピック釜山大会に山口淳一が
出場『銀1』
同大会に中野 薫先生がコーチとして参加
- 11月 第2回全国障害者スポーツ大会「よさこいびっく高知」に松野純男（陸上）が
出場
『銅1』
- 12月 第3回IPCアルゼンチン大会に乾井紀英、山口淳一が
出場
- 12月 冬合宿開催「大阪市舞洲障害者スポーツセンター」・「アミティ舞洲」9名参加
島岡 眞先生がコーチとして参加

2003年（H15年）

- 4月 総会を開催し代表に竹村 正、副代表に松野純男、久永正夫（新任）を選出
運営委員に賀集功二、木内泰行、近藤 脩、中川公子、三浦芳茂、芳中佳代子、木村忠一（新任）、清水煌三（新任）、高森敏夫（新任）、西井圭子（新任）を選出
中富久美子の退任を承認
- 5月 第3回奈良県障害者スポーツ大会（奈良県営温水プール）に20名出場
- 6月 夏合宿開催「神戸市しあわせの村」21名参加
中野 薫先生、小川雅代先生がコーチとして参加
- 7月 第14回近畿身体障害者水泳選手権大会（ファインプラザ大阪）に15名出場
近畿身体障害者水泳連盟から近畿大会10回出場者として木内泰行が表彰を受ける
- 8月 2003ジャパンパラリンピック（なみはやドーム）に湊 恵子、仲西洋平、乾井紀英、山口淳一が
出場『金5・銀2・銅2』
- 10月 第20回日本身体障害者水泳選手権大会（東京辰巳国際水泳場）に湊 恵子、仲西洋平、乾井紀英、竹村 正、大森正勝、松野純男が
出場
『金7・銀4・銅2』
- 11月 第3回全国障害者スポーツ大会「わかふじ大会」（静岡県）に高森敏夫、仲西洋平、森 和希が
出場『金2・銅3』 同大会に島岡 眞先生がコーチとして参加
- 12月 冬合宿開催「大阪市舞洲障害者スポーツセンター」・「アミティ舞洲」19名参加
中野 薫先生、小川雅代先生、島岡 眞先生がコーチとして参加

2004年（H16年）

- 4月 総会を開催し代表に竹村 正、副代表に久永正夫、松野純男を選出
運営委員に賀集功二、木内泰行、木村忠一、近藤 脩、清水煌三、高森敏夫、中川公子、
三浦芳茂、芳中佳代子、湊 恵子（新任）を選出
西井圭子の退任を承認
当クラブ創立20周年記念事業の実行委員会（実行委員長：松野純男）を設立
- 5月 第4回奈良県障害者スポーツ大会（奈良県営温水プール）に17名出場
- 6月 夏合宿開催「大阪市舞洲障害者スポーツセンター」・「アミティ舞洲」19名参加
中野 薫先生、島岡 眞先生がコーチとして参加
- 7月 当クラブ20周年記念事業としてスイミングキャップを作製
- 7月 第15回近畿身体障害者水泳選手権大会（京都市障害者スポーツセンター）に8名出場
- 8月 2004ジャパンパラリンピック（なみはやドーム）に乾井紀英、仲西洋平、湊 恵子、
山口淳一が出場『金2・銀3・銅1』
- 8月 臨時総会を開催して当クラブ名称を「奈良身体障害者水泳クラブ」から「奈良障害者水泳
クラブ」へ改称することを承認
- 10月 第20回日本身体障害者水泳選手権大会（大阪市舞洲障害者スポーツセンター）に乾井紀英、
松野純男、仲西洋平、高森敏夫、大森正勝、湊 恵子が出場
『金3・銀1・銅3』
- 10月 当クラブ20周年記念事業として記念文集を発行
- 11月 第4回全国障害者スポーツ大会「彩の国まごころ大会」（埼玉県）に大森正勝、小島江梨、
佐野卓司、山口淳一が出場
『金3・銀1・銅3』
同大会に近藤 脩がコーチとして参加

- 注1．ふれあい寮とは、奈良県磯城郡田原本町に所在する奈良県心身障害者福祉センター内にある宿泊施設のことです。
- 2．機関紙の名称は第50号より「奈良身障SC通信」から「奈良フレンズ」と変更し、第78号（2004年7月現在）発行に至っております。
- 3．奈良県障害者スポーツ大会出場者数には関係者としての参加人数を含みます。
- 4．日本身体障害者水泳連盟（JSFD）は、競技会の開催、国際大会への選手団の派遣、身体障害者水泳の普及・指導および技術の調査研究、指導者の養成などを通して、身体障害者の心身の発達に寄与することを目的とし、また、選手強化合宿ならびに指導者研修会を通じて障害者の社会参加につとめている団体です。近畿身体障害者水泳連盟はその下部組織の一つであります。
- 5．フェスピック（Far East South Pacific）とは、極東・南太平洋身体障害者スポーツ大会として、東アジア、東南アジア、南太平洋諸国において、スポーツを通じて障害者福祉を促進することを目的として始められた障害者のスポーツ競技大会です。「保護より機会を」のスローガンのもと、授産施設「太陽の家」を設立した故中村 裕博士らの提唱により、障害者のスポーツの普及をめざして1975年発足。エリートスポーツを推進するパラリンピックとは異なり、スポーツを通じた障害者の社会参加の推進をめざすという理念を持っている。
現在では、パラリンピックの中間年に開催されています。

6. 奈良ハンディスイミングボランティア協会（奈良HSV協会）とは、奈良県立医大で体育講師をされていた故濱田志朗先生の提唱により県内に障害者の水泳を支援するボランティア組織を作りたいということでできた組織。その準備の時から濱田先生のほかに県リハビリテーションセンターの沢井医師や看護婦、理学療法士、作業療法士などのほかに養護学校の教員、水泳の指導員、身障スイマー（近藤 脩、松野純男）などが集まり立ち上げたものです。
濱田先生としては主として学齢期前の障害をもった子どもたちに水泳を通して、リハビリを含む身体の回復から始まり、やがては生活面や社会面での自立を目指せるようその支援をしたいというもの。したがって「奈良フレンズ」とは年齢的に重なることはほとんどないがその目指すことではかなり一致しており設立の当初から協力、協同の関係にあります。
7. 全国障害者スポーツ大会とは、平成12年度まで別々に開催されていた「全国身体障害者スポーツ大会」と「全国知的障害者スポーツ大会（ゆうあいピック）」を統合して開催している国内最大の障害者スポーツの祭典です。
8. IPC（International Paralympic Committee）国際パラリンピック委員会 1989年9月設立。障害者スポーツの国際的な統括組織として定期的にパラリンピック大会を開催。IPCモットーである「Spirit in Motion」は、パラリンピック選手のすぐれたパフォーマンスと、「人を勇気づける」というパラリンピックムーブメントの特性を表現している。2004年1月13日現在155か国・地域が加盟している。
9. マスターズ水泳大会は、（社）日本マスターズ水泳協会が主催する大会を含め、毎年、約90の公認大会が全国で開催されています。個人の能力に応じて、18才から5才毎に区分した年齢別に、100才までの幅広い年齢層にわたって、水泳競技を楽しむもので、『健康・友情・相互理解』をモットーとするものです。